

名物の焼き肉、ビール味わって

北見日赤の研修医ら激励



支援する会、31日集い

北見赤十字病院(吉田茂夫院長)で働く研修医を激励しようと、市民団体「北見赤十字病院の明日を考え支援する会」(谷川勝男代表)は31日、「北見での思い出づくりの集い」を初めて開く。地方の医師不足が課題となる中、「北見で研修して良かった」と感じてもらい、医師確保に結びつけようというエニークな取り組みだ。

集いは野付牛公園が会場で、北見日赤の研修医、大半が北見日赤の看護士となる日本赤十字看護大学の学生を招き、支援する会会員と合わせ計40人が参加する

んがこの病院を大事に思ってくれるのがありがたい」と話す。本州で同様の事例はあるが道内では珍しく、今回の集いの経緯について道内他市町から病院側に問い合わせもあったという。

支援する会は北見日赤の医師確保の一助へと企画し、5月から準備を進めてきた。

逢坂信治副代表は「地元企業にも協力してもらい感謝している。忙しい研修医の皆さんに少しでも『北見で研修して良かった』と思ってもらえるような集いしたい」と話している。

(相川康晴)

予定。北見名物の焼き肉とオホーツクビールを味わってもらい、フォークダンスを楽しんでもらう。

地元企業も協力。「味覚園」などを展開する坂口精肉店と、オホーツクビールが趣旨に賛同し、焼き肉やビールを提供し、炭やコンロ、椅子などを貸し出す。北見フォークダンス協会がダンスの指導にあたる。

北見日赤は「地元の皆さま